

労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブ Lavori 設立趣意書

ワーカーズ・コレクティブ Lavori は、経済だけが優先される競争社会の中、人々の孤立感の高まり、息苦しさや将来への不安を感じながら、孤立状態で生活せざるを得なくなっている現在の地域社会の課題を背景に、2017年1月に設立されました。くらしサポート(事業)のワーカーズ・コレクティブは、そこで働く人自身の暮らしと仕事を重ね、また、働く仲間をひろげ、地域経済の循環をより豊かにすることにより地域社会の歪みを公正してゆきたいと考え創成しました。地域の中で人、モノ、カネを豊かに循環させることで地域経済を広げ、「はたらく」(働く)を通して地域全体を豊かにしてゆくことを目標に掲げ5年間活動を進めてきました。

女性が積み重ねてきた生活技術を活かし、また地域で働きつづけたい女性の意欲を束ね、多様な人たちが集い人間らしい働き方を創造していくことを目的にしてきました。ワーカーズ・コレクティブ設立当初から、週1回・短時間から働ける仕事の環境の整備に努めてきましたが、現在は社会保険を付ける働き方を目指せる環境が整ってきています。

「孤立と分断」が進む地域社会の中で多元的な問題解決が求められる事を予測して、生活クラブの活動や運動グループの事業など今まで構築されてきた資源とつなぎ連携し、くらしサポートを入り口に利用者の一人ひとりのニーズに伴走する姿勢でサービスをつくってきました。

協同労働によるワーカーズ・コレクティブ Lavori の設立により、くらしサポート事業を通してすすめてきた「生きる・働く・暮らす」を重ねる働き方は、現在の課題を解決するテーマとして最もふさわしいテーマとして位置付けます。

2040年は、団塊ジュニア世代が65歳以上になり日本の高齢化率がピークになることが予測されています。どの世代も将来不安を抱える中、いつまでも地域で人に必要とされながら働き、暮らしていくことが求められます。「生きる・働く・暮らす」を重ねる働き方をテーマに、今後も利用者との関係性を積み重ねていくことで、サポートするワーカー自身の「ケア力」が高まります。そして、地域でマンパワーを構築することで、組織と組織、組織と人、人と人がお互いを認め合い対等な風通しが良い関係性をつくり、豊かな地域社会を形成していきます。

労働者協同組合法が施行され法人格を取得することは、地域で持続可能な働き方と自分らしさを表現し、お互いを認め合いながら働くことで地域づくりに資することができます。女性や高齢者や子どもは社会的に弱い立場にあると言われていますが、SDG'sは2030年を目標に、「誰一人取り残さない」ということを掲げています。5年間のLavoriの活動を基に、次の展望として、他の団体とも協力し合い社会的連帯経済をつくり、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)が実現できる地域社会づくりを目指して、労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブ Lavori を設立します。

2022年10月13日

労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブ Lavori 設立発起人会